

地域づくり団体（九戸村）



自然に親しみ、被災地支援でも大活躍

九戸村山友会

- 設立：2009年
- 主な活動地域：二戸市足沢地区
- 目的：登山を通じて自然との触れ合いを深めるとともに、会員相互の交流を図ることを目的として結成。
- 代表 小笠原 耕悦
- 連絡先 0195-42-4400（滝谷）



野田村の人たちを招いて実施した村民登山の集合写真

●主な活動

九戸村のみならず二戸、軽米、八戸、更には盛岡、花巻にも会員がいて、元旦登山に始まり、村民登山、滝巡り、遠征登山、スポレク、山菜教室、キノコ教室ほか巨木巡りや写真展など多彩な活動に取り組み、オールシーズン自然との触れ合いを楽しんでいる。

東日本大震災の際には、九戸村山友会の皆さんはいち早く支援活動を始めた。野外での火起こしや炊事活動に慣れていることを生かして、震災の1ヶ月後の4月に釜石市で炊き出しを行った。その後は村から近い野田村を中心に計15回にもわたる炊き出しや支援物資の提供を行った。

●主な受賞歴

平成24年度「東日本大震災における貢献者表彰」受賞



野田村に支援物資を届けた時の様子

地域づくり団体（九戸村）



「かぼちゃ祭り」で30年間地域を盛り上げた

戸田かぼちゃ祭り実行委員会

- 設立：1989年
- 主な活動地域：二戸市足沢地区
- 目的：希薄になりつつあった地域の住民同士のつながりを深めようと、約50戸の農家が飼料用の巨大かぼちゃを栽培し展示したことから始まり、以降、地域の収穫祭として定着し、戸田元村自治会や青年会、婦人会の協力も得て地区全体のイベントに発展。
- 代表 橋本 敏夫 → 晴山 裕康



かぼちゃロードに並ぶかぼちゃたち

●これまでの主な活動

お祭りの前後2週間ほど、イベント会場の戸田小学校近くの国道340号沿いには、約2キロにわたり大小様々な、そして表情豊かなかぼちゃたちが出現。この「かぼちゃロード」には、毎年二戸地域だけではなく八戸市や盛岡市からも多くの観光客が訪れ、今の時代を反映して、インスタグラムなどでも多く紹介されてきた。かぼちゃの重さコンテストや1歳児による一升餅背負い歩き大会、かぼちゃボウリングなど、子どもから大人までが楽しめるメニューが盛りだくさんで、郷土芸能発表会、郷土料理の出店や農産物の販売も行った。地域づくりサポーターズの助成を受けたことがきっかけで近隣市町村の地域づくり団体との交流も盛んになり、二戸市浄法寺の岩誦坊クラブによるえんぶりや軽米町の軽米ソーラン愛好会による演舞が披露されたこともあった。

※2019年の30回目のかぼちゃ祭りを最後に活動を休止。

●主な受賞歴

1995年に「岩手県生き生き中山間賞」、2000年には「第10回岩手農民文化賞」を受賞し、近隣市町村との交流活動にも発展して、地域観光行事としても定着。



子どもたちに人気だったかぼちゃボウリング

地域づくり団体(九戸村)



明るく楽しく！世代間交流を目指す

オドデ塾

- 設立：1993年
- 主な活動地域：九戸郡九戸村
- 目的：過疎化や少子化が進む中、江刺家地区と細屋地区が一緒になってできる活動は何かないだろうかと考え、「明るく楽しい地域づくり」と「世代間交流」を目指し結成。
- 代表 七戸 智広
- 連絡先 0195-42-2098



園児からお年寄りまで幅広い年代の出演者が40以上の演目を披露する日本一長い演芸会「ふれあい演芸まつり」。写真は小学生有志による「よさこいソーラン」

●主な活動

例年2月末か、3月始めに行われる「オドデ塾ふれあい演芸まつり」と、「オドデ塾盆踊り大会」の開催。第15回演芸まつりには、岩手県「元気なコミュニティ100選」に同じく選ばれた軽米町の円子よさこい組“どっこいしょ”が友情出演し、会を盛り上げた。

そのほか、地区行事へ積極的な参加と協力を図り、子ども会や小学校の体験活動へも応援活動を行っている。

オドデ塾の塾生になれる条件は、一つは学生を卒業し社会人であること、もう一つは江刺家・細屋地区が好きな人であること。地元出身者以外でも、学校の先生や病院の先生など、この地区に何らかの関わりがある人なら、誰でも入ることができる。

●主な表彰

平成20年度の岩手県「元気なコミュニティ100選」に選出。



にぎわいを見せる盆踊り大会の様子

地域づくり団体（九戸村）



子どもたちに生の“むかし”を伝え続ける

読み聞かせグループやまびこ

●設立：2004年 ●主な活動地域：九戸郡九戸村

★昔語りや絵本、紙芝居の読み聞かせ、ペープサート（紙人形劇）を通して、村内の多くの子どもたちに昔話の世界を伝え続けている。

●代表 伊保内 恒子 ●連絡先 0195-42-2533



小学校での読み聞かせの様子

●これまでの主な活動

当初5名だったメンバーは現在、は60代～80代の10名。保育園や小学校などでの公演の他、九戸村公民館図書室での読み聞かせやブックスタートのお手伝い、更には伊保内高校で読書ボランティア活動に参加する高校生たちに指導を行ったり交流したりしている。

研修会で一緒になったことがきっかけで、昔語りを伝える県内の5団体による連携・交流が生まれ、九戸村のふるさと創造館で『第3回いわて民話まつりin九戸』が開催された。県内18名の語り部の活動発表に村内外から多くの来場者があり、大変な盛り上がりを見せた。

●主な表彰

『第50回全国優良読書グループ表彰』を受賞



『民話まつり』でのユニフォーム姿のメンバー